

令和6(2024)年度 各部・各学年・各学科の具体策評価

本年度の重点目標

1. 生徒に対して ①学習指導の充実 ②進路指導の充実 ③生徒指導の充実
2. 保護者に対して ①普段からの連携と信頼関係の構築
3. 地域に認められる学校づくり ①情報発信 ②地域貢献
4. 行事の精選（特別活動・各学科等で教育課程への位置づけ）
5. 職員 ①働き方改革の推進②チーム北陵・目標の共有・働きやすい職場
6. 新しい動きへの検討 ①新教育課程の検討②大学入試改革制度等の検討③ユネスコスクールとしての意識

部・学年・科	重点目標	具体策	評価基準	評価
魅力化推進部	3	学校の様子や生徒の活動状況が保護者や地域等に広く伝わるよう、これまで以上に本校ホームページへの記事掲載の頻度を増やすとともに、見やすく内容の充実が図れるよう工夫する。	A・・・これまで以上に記事掲載の頻度を増やし、工夫を重ねることで、見やすく内容の充実を図ることができた。 B・・・これまで以上に記事掲載の頻度が増やし、内容の充実を図ることができた。 C・・・記事掲載の頻度の増加、内容の充実が図れた。	B
	4	専門高校の特性を活かした行事が行えるよう各学科や学年などと連携し、事前準備から実施まで、組織的に取り組めるよう計画する。	A・・・専門高校の特性を活かし、組織的に行うことができた。また、次年度の反省なども十分に行えた B・・・専門高校の特性を活かし、組織的に行うことができた C・・・専門高校の特性を活かした行事を行うことができた	B
	6	ユネスコスクールの取り組みとして、持続可能な開発のための教育(ESD)の理念を取り入れながら、行事の計画・実施や学習活動の指導を行う。	A・・・持続可能な開発のための教育(ESD)の理念を十分に取り入れながら行えた B・・・ESDの理念を取り入れながら行えた C・・・十分ではなかった	B
教務部	4	周辺地域の感染状況や感染対策を十分に考慮したうえで、生徒の成長に期する行事を実施する。	アンケート「課外活動が活発である」の結果が昨年度と比較し 10%以上改善・・・A 5%以上～10%未満改善・・・B 5%未満改善・・・C	B
	6	統合型校務支援システムへのスムーズな移行と、システム利用による校務運営の円滑化を図る。	スムーズに移行し校務運営を円滑化できた・・・A スムーズに移行することができた・・・B スムーズな移行が十分にできなかった・・・C	B
	3	HPを利用して情報発信を行い、学校の様子や学校の特色をよりわかりやすい形で伝える。	十分情報発信することができた・・・A 情報発信できた・・・B 十分に情報発信をできなかった・・・C	B
学習指導部	1	関係職員と連携し、生徒指導を行うことにより、各定期試験の不正行為の件数を減少させる。	A・・・0件 B・・・1件 C・・・2件以上	A
	1	関係職員と連携し生徒指導を行うことにより、校内漢字テストの各学期の平均10点未満の生徒数を昨年度2学期実績より減少させる。	A・・・4割以上減少 B・・・3割以上減少 C・・・2割未満減少	C
	1	タブレット端末の授業公開等を実施し、生徒の活用促進を図る。	授業でタブレット端末を活用した教員の割合 A・・・80%以上 B・・・50%以上 C・・・50%未満	B

特別活動部	4	1、生徒会活動、部活動、家庭クラブ活動等特別活動の活性化に努める。 (1)自主的かつ規律ある活動を促し、生徒自ら行動できるように指導する。 (2)生徒一人ひとりが意欲的に活動に参加し、達成感を得られる行事の運営に努める。	(1)自ら行動できた生徒の割合が A…80%以上 B…約70%程度 C…約60%以下 (2)A…十分にできた B…できた C…できなかった	B
	3	2、部活動の活性化と成果を目指した指導の充実に努める。 (1)学年や部顧問と連携して、部活動の加入率および継続率向上を図る。 (2)活動場所および部室の管理指導を行い、本校の活動方針に則した活動を行う。 (3)学校ホームページを活用し、活動の発信に努める。	(1)部活動の加入率および継続率が A…向上した B…変化なかった C…減少した (2)管理指導を行うことで A…十分な活動ができた B…部室の管理指導ができた C…十分にできなかった (3)A…十分発信することができた B…発信できた C…発信できなかった	B
進路指導部	1	各学科・各学年との連携を図り、組織的系統的な進路指導体制の構築と学科の特性に合った資格取得の推進、その学びを活用して進路実現をできるような指導・支援をする。	A…十分にできた B…できた C…できなかった	B
	1	各学科・各学年・学習指導部との連携を図り、大学入試・就職求人状況・模擬試験やガイダンスを活用して生徒への情報を適宜提供する。	A…十分にできた B…できた C…できなかった	B
	1	卒業後の環境に速やかに適応するために、元気な挨拶と礼儀正しい言動がとれるよう、普段からきめ細かい指導を行う。	A…十分にできた B…できた C…できなかった	B
	3	地元を愛し、地域産業に貢献できる人材を育成できるよう、適切な情報提供と進路支援を行う。	A…十分にできた B…できた C…できなかった	B
生徒指導部	1	自己指導力の育成を図る。 (1)基本的生活習慣の確立 (2)規律の遵守の習慣化 (3)危機管理意識の高揚	A…基本的生活習慣や社会性の向上が多くの子に見られた B…基本的生活習慣または社会性の向上が見られた C…基本的生活習慣や社会性の向上はみられなかった	B
	1.2.5	「チーム北陵」として、問題行動・特別支援等について、未然防止と組織的対応を図る。 (1)学年・学科との連携及び全職員で情報共有し、組織的に対応する。 (2)学校、家庭(保護者)、専門機関と対応・連携を図れるようにする。	A…「チーム北陵」として連携しながら、組織的に事案に対応することができた。 B…十分な対応をすることができた。 C…組織的に対応することに課題が残った。	B
	1・2	生徒理解や生徒把握に努め、生徒個々に合った適切な指導援助を行う。 (1)生徒へ積極的に声かけや面談を行い、生徒理解に努める。 (2)学年・学科・保健室等で密に情報交換を行い、生徒の理解・指導に努める。 (3)家庭の背景を十分に把握した上で、生徒に応じた指導援助を心がける。	A…積極的かつ十分な生徒理解、適切な指導がおこなえた。 B…十分な生徒理解、指導がおこなえた。 C…生徒理解、指導に課題が残った。	B
渉外部	3	PTA・同窓会・諸団体からの要請に対応できる体制を確立し、情報共有並びに連絡調整を余裕もって行う。	A…全ての体制を確立し、余裕もって情報共有と連絡調整ができた。 B…体制の確立はできたが、余裕を持った情報共有と連絡調整が難しかった。 C…体制の確立、情報共有と連絡調整も滞った。	B
	3	各種行事への積極的な参加・協力を依頼する。	A…各団体8割以上の役員の方が出席した。 B…各団体6割程度になった。 C…各団体6割未満だった。	C
健康指導部	1	保健委員会活動を年間(毎月)を通して充実させる。	A…ほぼ毎月活動できた B…隔月程度活動できた C…十分な活動ができなかった	B
	1.5	心の健康問題について、教育相談係や担任と連携をとり、情報を共有し組織的な対応を行う。	A…情報を共有し組織的に対応できた B…情報の共有または組織的対応のどちらかが不十分であった C…情報の共有及び組織的対応とも不十分であった	B
	1・5	職員及び生徒の防災意識の向上を図る。	A…防災訓練等を通じ、教職員・生徒の防災意識の向上が見られた B…防災訓練等を行ったが、教職員・生徒の防災意識は現状維持であった C…防災訓練等を行ったが、教職員・生徒の防災意識の低下が見られた	A
	3	校内の老朽箇所及び危険箇所の発見と対応を図る。	A…老朽化・危険箇所を積極的に発見し対応することができた B…老朽化・危険箇所を発見し対応することができた C…老朽化・危険箇所を発見できなかった	B
	6	自販機周辺のゴミ(ペットボトル等)の管理の徹底を図る。	A…十分な管理をおこない清潔な状態を保ち整理できていた B…管理をおこない整理できていた C…管理が不十分であり不衛生な状態の時があった	B

1 学年	1	基本的生活習慣を確立させる	学年の出席率が A:96%以上 B:94%以上 C:93%以下	B
	1	基礎学力の向上を図る	クラス平均が A:75点以上 B:70点以上 C:69点以下	C
	1	交通安全を心がけさせる	交通事故の件数が A:5件以下 B:6件以上 C:10件以上	A
2 学年	1	基本的生活習慣を確立するとともに、規範意識を高める。	生徒の自己評価シートの結果、最も肯定的な回答をした生徒の割合 A:9割以上 B:8割以上 C:8割未満	B
	1	授業を中心とした学習習慣を確立し、学力の向上を目指す。	定期試験の赤点取得生徒の割合(平均) A:25%未満 B:35%未満 C:35%以上	C
	1	他者の立場や気持ちに立って考え行動できるような心を養う。	生徒の自己評価シートの結果、心の成長がみられた生徒の割合 A:9割程度 B:8割程度 C:8割未満	B
3 学年	1	学期成績80点以上の増加と学期赤点延べ科目数0を目指す。	A…平均80点以上150%増加および赤点延べ科目数0 B…平均80点以上以上120%増加および赤点延べ科目数5以内 C…平均80点以上昨年度並み以下および赤点延べ科目数6以上	B
	1	出席率90%以上を目指す。	A…90%以上 B…85%以上 C…85%未満	A
	1	進路内定100%を目指す。	A:100% B:90%程度 C:90%以下	B
生物生産科	3	HPを通して、授業や実習の様子、地域貢献活動などを全ての部門において積極的に発信する。	A…20回以上実施 B…10回程度実施 C…実施せず	B
	6	SDGsに配慮した持続可能な農産物生産に関する教科指導を充実させる。	A…十分に検討・実践できた B…検討・実践できた C…検討・実践できなかった	A
	1	先進地見学等の学科行事や資格取得を通して、専門教育の充実を図る。	A…例年より多くの行事を実施し、資格取得者が増えた。 B…例年並みの専門行事の実施および資格取得者数であった。 C…例年以下の行事の実施および資格取得者数であった。	B
農業機械科	1	専門科目における、実践的な指導による知識・技術の定着と各種資格取得を通して、地域産業を支える技術者の育成を図る。	各学年3つ以上の資格を取得できた生徒の割合 A…80%以上 B…70%以上 C…70%未満	C
	1	安全な実習を実施に向け、5S及びヒヤリハットの周知し、安全教育の徹底と生徒一人一人の安全意識の向上に努める。	A…機械等による事故や怪我がなく、生徒の安全意識が向上した。 B…機械等による事故や怪我がなく、安全な農場実習が実施できた。 C…事故や怪我を防ぐための取り組みが不十分だった。	B
	1	生徒の適性にあった一人一人の進路選択ができるよう、大学や企業見学、地域活動への参加を実施し、進路指導の充実とキャリア教育の推進に努め、進路意識の向上につなげる。	アンケート実施にて進路意識の向上の割合 A…80%以上 B…70%以上 C…70%未満	A
食品科学科	1	先進地見学や上級学校見学の実施により、進路意識の向上につなげる。	アンケートを実施し、次のように評価する。 A…90%以上が進路意識が高まり、明確な目標を定められた。 B…70%以上に進路意識の向上がみられた。 C…進路意識の向上がみられた生徒が70%未満	A
	1	将来の進路に関連づけて資格取得の指導を強化する。	A…例年に比べて多くの生徒が資格取得した。 B…例年通りの結果だった。 C…例年に比べ、取得率が低下した。	B
	1	地域と連携した活動を継続的に行う他、研究活動の教科を目指す。	A…例年以上に学科の生徒が地域交流に参加する他、食品化学や微生物学を基盤とした研究活動にも積極的に取り組めた。 B…例年通り地域交流活動に取り組めた。 C…例年に比べ地域と連携した活動を行えなかった。	B

総合ビジネス科	1	1年生 反復学習による技術知識の定着を図り、資格取得に積極的に挑戦させ、2つ以上の検定には必ず合格することで自己肯定感を高める。	A・・・90%以上の生徒が2つ以上の検定に合格できた。 B・・・80%以上の生徒が2つ以上の検定に合格できた。 C・・・70%以上の生徒が2つ以上の検定に合格できた。	B
	1	2年生 学校行事や地域事業に積極的に参加することで、自己の進路を考察し、高い勤労観・職業観を育成する。また専門的な知識や・コミュニケーション能力を身につけさせる。	A・・・例年に比べ積極的に取り組むができた。 B・・・例年並みの取り組み状況であった。 C・・・例年に比べ消極的な取り組みであった。	B
	1	3年生 課題研究や総合実践の科目を通して、自ら課題を発見し、創造力を発揮し、実社会のビジネスの諸活動において困難な問題を積極的に解決できる能力を育成する。	A・・・積極的な取り組みにより問題解決できた。 B・・・積極的な取り組みにより能力向上が見られた。 C・・・例年より消極的な取り組みとなった。	B
介護福祉科	1	介護福祉士国家試験に向けて、生徒一人ひとりが学習課題を明確に持ち、日頃の学習に取り組むことができる。	A・・・生徒が主体的に取り組むことができた。 B・・・例年並みの取り組み状況である。 C・・・例年より消極的な取り組みとなった。	C
	3	日頃の福祉の学習を通して得た視点から、地域課題に目を向け、福祉の視点を広く地域に発信する。	A・・・十分に発揮する活動となった。 B・・・例年並みの取り組み状況である。 C・・・例年より消極的な取り組みとなった。	A
	3・6	ユネスコスクール活動の継続のため、福祉の視点を持って、校内外の活動に取り組む。	A・・・生徒が主体的に取り組むことができた。 B・・・例年並みの取り組み状況である。 C・・・例年より消極的な取り組みとなった。	A